



平成30年8月3日
国土交通省中部地方整備局
名古屋国道事務所
扶桑町

山名地区（扶桑町）でハンプの実証実験を実施 ～「暮らしの道」の安全対策に向けて～

1. 概要

国土交通省では、ETC2.0プローブ情報等のビッグデータを活用して、生活道路の交通安全確保を目的とした技術的支援を行っています。

扶桑町では、山名小学校周辺的生活道路において、交通量の増加に伴い交通安全対策を進める必要があることから、平29年度より地域の方々と扶桑町、愛知県、警察、小学校、有識者が連携した「生活道路交通安全対策協議会」を設置し、安全対策について検討して参りました。

今回、国土交通省が貸与する仮設ハンプを「山名地区」の山名小学校前の町道に設置し、設置前後での交通量や走行速度の変化などの効果を検証する実証実験を実施します。

実験内容：生活道路への仮設ハンプ設置による実証実験

設置期間：平成30年8月6日～9月30日（予定）

実験場所：愛知県丹羽郡扶桑町大字南山名

（山名小学校前の町道南山名・宮前線）

※実証実験の効果検証にあたり、現地にて走行速度、交通量等の調査を実施します。また、利用者の意識を把握するために、対象地区の世帯にアンケート調査を実施します。

2. 資料 扶桑町山名地区での仮設ハンプ「実証実験」（概要）

3. 解禁 指定なし

配布先
中部地方整備局記者クラブ

問い合わせ先
<生活道路安全対策に関するお問い合わせ>
国土交通省 中部地方整備局 名古屋国道事務所
副所長 伊藤 博文 TEL:052-853-7320
事業対策官 可児 誠 FAX:052-841-2517
<実証実験全般に関するお問い合わせ>
扶桑町役場 産業建設部 都市整備課
主幹 酒井 剛 TEL:0587-93-1111（代表）
統括主査 長瀬 史郎 FAX:0587-93-2034

扶桑町山名地区での仮設ハンプ「実証実験」(概要)

日常生活で利用する“生活道路”では、交通事故が多く発生しています。生活道路を通り抜ける自動車や、スピードが速い自動車が多いことが、交通事故発生の原因のひとつになっています。こうした問題に対し、道路上にハンプ（こぶ）を設置し速度を抑制する実験を行います。



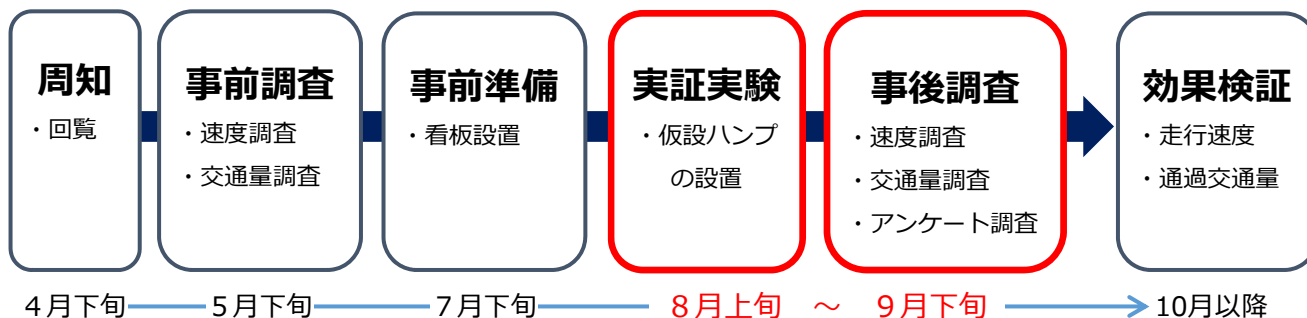
【実施スケジュール】

ハンプ設置期間（予定）：平成30年8月6日～平成30年9月30日

【仮設ハンプの設置場所】 下記の位置図に示す箇所において実証実験を実施します。



【実証実験と調査の内容】 実証実験は以下の流れで実施していきます。



【今後の予定】

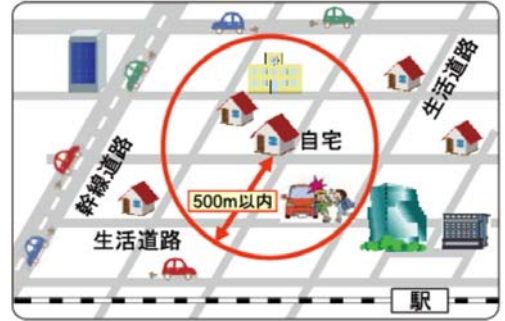
「仮設ハンプ」の実験にあたり速度等を把握するための事前調査および事後調査（設置後予定）を実施し、ハンプの効果を検証していきます。

＜参考＞生活道路について

みなさんの生活の一部として利用される歩行者中心の暮らしの道

【生活道路とは？】

生活道路とは、地区に住む人々が通学や買い物といった日常生活の中で自宅周辺の比較的狭い範囲での移動や、最寄りの幹線道路に出るまでに利用する道路の事をさし、自動車が頻繁に通行しない、歩行者中心の暮らしの道と位置付けられています。

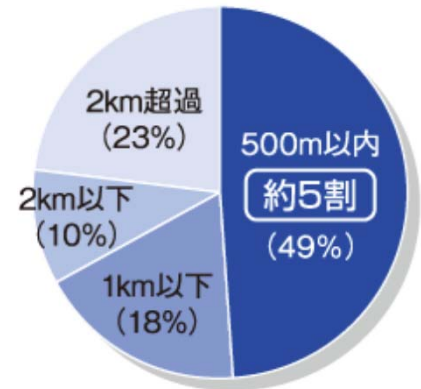


生活道路のイメージ

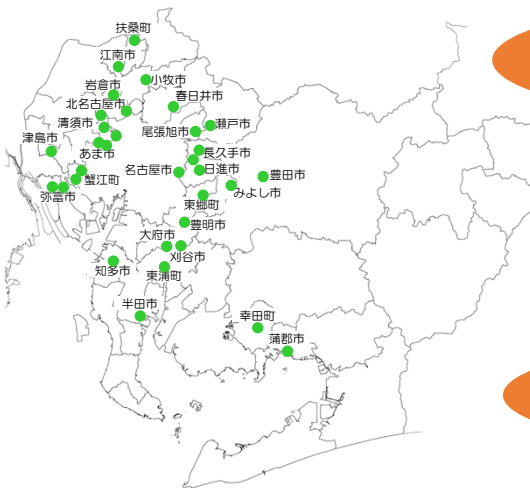
【生活道路の現状】

生活道路での歩行者・自転車事故が多く発生しており、その半数は自宅周辺500m以内の生活道路で発生しています。

こういった状況を解決するためには、危険な箇所を事前に把握し、適切な対策を実施する必要があります。そこで、国土交通省、警察及び各道路管理者が連携し特に危険性が高いエリアを「生活道路対策エリア」に選定し交通安全対策を実施しています。



自宅からの距離別死者数の割合



生活道路対策エリア

愛知県内では27市町33エリア（※1）を生活道路対策に選定しました。そのうちのひとつが扶桑町の『山名地区』です。
（※1 平成30年5月末時点）

ハンプとは？

自動車の速度抑制のために道路上に設けられた台形状の“こぶ”のこと。

今回の実証実験では取り外し可能な「仮設ハンプ」を設置し、設置前後の交通量や走行速度の変化などを検証するとともに生活道路への影響を調査します。



イメージ

